

林業部会のキーワード

◎3年後のあるべき姿

「地域資源を活用した特産品」「ここにしかない美味しいもの」「食を中心としたまちづくり」「外貨を獲得」「知名度アップ」「域内総生産額アップ」「魅力ある働く場」「外国人や他地域の人が流入する」

■担い手

■人材確保

- 売り上げが安定しないため雇用できない
- 素材生産者の減少
- 仕事へのやりがい醸成
- 後継者不足

■人材育成

- 現場、プランナー育成が必要
- 良質の木材を目利きできる技術の承継
- 小規模事業者への研修や支援

■生産

■生産体制

- 機械化が不十分
- 車両によらない搬出方法
- マーケティング力の向上

■産業全体の課題

- 林業の集約化(森林所有者からの経営委託)
- 製材所不足(域内循環ができていない)
- 良質材の減少

■流通

■需要の減少

- 木造建築の減少
- 市内業者への製剤製品販売量が減少
- 木材価格の低迷
- ヒノキブランドの強化不足

■製品化の課題

- ヒノキブランドの強化不足
- 建築用材以外の製品が少ない
- 地元の木の流通情報が少ない

恵那市産業振興ビジョン検討部会ワークシート(林業部会)

現状と課題

分類	現状と課題	
	市の現状と課題の認識(マクロの視点)	委員の現状と課題の認識(ミクロの視点)
担い手(担う要素)	<p>(弱み)林業経営者、従業者が減少している。 (弱み)小規模零細な経営体が多い。 (強み)若い林業経営者の増加。 (弱み)林業をトータルでコーディネート出来る人材の育成。 (弱み)施業面積の集約化が十分に進んでいない。 (弱み)森林管理者、林業技術者の育成。 ●他業種に比べて林業は事故率が高く危険だというイメージが強い。 ●移住者は農林業への就業を好む傾向がある。</p>	<p>○担い手不足(全般) ・林業者が少ない。 ・売上げがまばらでなかなか人が雇えない。 ・担い手と生産性の向上一連の流れの中での教育が必要。 ・人材育成(現場、プランナー)。 ・仕事へのやりがいの醸成。 ・林業以外で地域への参加により生きがいを見出すことで定着率が上がる。 ・住民と山とのつながりがほぼ無い。 ・<u>素材生産者の減少に伴う流通木材の減少</u> ・林業をやりたいと他地域から来る人が十分な所得を得られないため定着しない ・<u>若い人を育てるためにはこれからはマニュアルが必要(教育方法の転換)</u> ・<u>働く人を確保するために土日を休みにしている(雇用条件の向上)</u> ・<u>良質の木材を目利き</u>できる人材が減っている(技術の伝承) (強み) 若手の森林技術員が充実 (強み) 危機感を持った当事者 (強み) 意欲的で協力的な移住者 (強み) 熟練者のノウハウ</p> <p>○担い手不足(小規模事業者) ・小規模な担い手が活躍出来るように。 ・小規模、副業としてやる人への研修や支援が必要。 ・<u>人材育成をするだけの余裕が無い</u> ・<u>後継者がいない</u></p>
生産(生み出す要素)	<p>●路網密度が低く生産性が上がらない。 ●木材(素材)価格が安すぎる。 ●高い生産経費と低い素材価格により仕事が成り立たない。 ●高性能な林業機械は高くて手が出ない。 ●施業の集約化が進まず機械稼働率が上がらない。 ●安定した大規模な需要とそれに応える安定供給の体制が出来ない。</p>	<p>○生産性が低い ・機械化が不十分 ・レンタル機械への補助金が必要。 ・小型林業機械の貸し出しや研修。 ・車両系に限定しない搬出方法の選定。 ・森林所有者からの経営委託(所有者の意識改革)。 ・<u>皆伐は間伐に比べて生産性が高いが、その後の植林、育林が課題だ</u> ・<u>不在地主や土地境界が分からないため集約化出来ない</u> ・<u>山林経営計画の策定に非常に手間がかかる</u></p> <p>○製材工場不足 ・製材工場が市内に1社しかない。 ・<u>製材所をやっても上手い出来ない</u> ・<u>原木のまま域外へ流出してしまい、域内での循環が出来ていない</u></p> <p>○整備が不十分 ・間伐等への補助金の増額。 ・路網整備。 ・<u>副業で林業をやりたい人(極小規模事業者)への補助制度がない</u></p>

流通(稼ぐ要素)	<ul style="list-style-type: none"> ●流通が多段階で利益が分散してしまう。 ●大規模加工業者が近くにないため輸送コストがかかる。 ●合板や木質バイオマスなどの新たな需要が生まれてきている。 ●市内にバイオマス関連施設がない。 ●輸入材が値上がりしている。 ●他産業との連携が十分に出来ていない。 ●バイオマス発電が増加してチップの需要が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○木材需要が少ない ・木材需要の減少。 ・木造建築の減少。 ・市内業者への製材製品販売量が減少している。 ・建築材を買う市内業者が減少している。 ・建築時に木材にこだわらなくなっている。 ・<u>海外(韓国など)からの注文はあるが、受注が安定しない</u> ・<u>木材は原材料なので価格が相場が決まってしまう生産者ではどうすることも出来ない</u> ・<u>生産者では需要の拡大への取組のしようがない。</u> ・地元企業(建築業)に元気が無い。 ・木材価格の下落、低迷。 ・<u>木材価格が下落して山林所有者が木を伐りたがらない</u> ・<u>素材価格が安すぎて山主に還元できない</u> ・<u>素材の入荷量が心配(生産体制の弱体化)</u> ・市内での木材消費量を増やす。 ・東濃ヒノキのブランド強化。 ・<u>ブランド強化の方法が分からない。</u> ・<u>東濃ヒノキの品質は認められているが、価格に転嫁出来ていない。</u> ・<u>収益を上げる事業計画のノウハウが不足。</u> ・消費者と生産者の情報共有マッチング。 ・<u>現状の仕事はあるが、この先の見通しが立たず業務の拡大の決心ができない</u> ・<u>出口(消費)の拡大の取組は個別事業者では難しい上、効果の発現までに長い時間がかかる。</u>
森林環境(守る要素)	<ul style="list-style-type: none"> ●間伐適齢期または主伐適齢期に達している豊富な森林資源が有効利用出来ていない。 ●手入れがなされなくなった森林が増え災害の恐れがある。 ●切り捨て間伐による未利用材が森林に放置されている。 ●植林がなされていないため、将来森林資源が枯渇する恐れがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○森林づくりが出来ていない ・森林の持つ公益機能が果たす役割、重要性の地域との合意形成。 ・恵那市の山のビジョン。 ・森林のエリア分け、多様な山。 ・<u>地域の森林を一括して管理、活用する仕組み、体制の構築(任せてもらえる環境)。</u> ・<u>良質材が減少している(手入れ不足)、過去の乱伐。</u>
製品化(高付加価値化)	<ul style="list-style-type: none"> ●市内には木材の加工業者が少ない。 ●現在のニーズに合った製品を開発する仕組みが無い。 ●恵那の森や木を十分にPR出来ていない。 ●稼働している製材所がないため、市内で製材が出来ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○製品化が進まない ・建築用材(合板)以外の製品が少ない。 ・県産材のような形で恵那市産材に特化した事業は出来ないか。 ・恵那市の木材というのが見えにくい。 ・<u>地元産材がなかなか地元で手に入らない。手に入っても他地域で買った方が安い。</u> ・<u>地元の木の流通情報が少ない。</u> (強み) オリジナル製品

* 下線・斜体部分は、個別ヒアリングとアンケートで出た意見